

第1回万江川土砂・洪水氾濫対策検討委員会

議事要旨

開催日：令和4年10月17日（月）

15：40～17：00

場所：山江村役場 2階 大会議室

1. 「万江川の現状分析」に関して

● 内山委員

- R2.7 豪雨の被災状況に関して、山江村内だけでなく、人吉市内も含めた万江川流域全体の状況を教えてほしい。
→〔事務局〕山江村と人吉市の行政界付近の堰を境に、上下流で現象が異なる。上流では崩壊・侵食・土砂洪水氾濫が見られるのに対し、下流では球磨川からの背水現象による影響も考えられるため、今回は山江村について報告した。
人吉市の被災については次回委員会または個別に情報提供する。
- P16の吐合ダム（万江川砂防堰堤2）において土砂堆積が多くみられるため、毎年住民からの不安の声が多くあげられる。除石しすぎると良くないという説明だったと思うが、その理由を説明してほしい。
また、吐合ダム（万江川砂防堰堤2）上流の橋梁において、現在は河床から桁下までの比高差が2～3mであるが、昔は7～8mであった。河床が上昇していることは明瞭であるが、問題はないか。
→〔事務局〕砂防堰堤には土砂調節機能があり、計画堆砂勾配を超えた異常堆積土砂を除石する方針である。計画堆砂勾配に合わせて、橋脚・護岸の根入れ深さを検討しているため、除石しすぎると構造物の強度に悪影響を与える可能性が考えられる。堰堤の効果で河床勾配を緩勾配にすることで、側岸侵食を抑える効果も期待される。
- P21の計画降雨時の計画生産土砂量140万m³を全量止めるという理解でいいか。
→〔執印委員〕計画生産土砂量全量を止めるわけではない。下流に必要な土砂量（計画許容流出土砂量）を差し引いた分を止めるという考えである。

● 事務局

- H21～R2のLP差分を見ると、堆砂域上流側では堆積しているが、堰堤直上流では侵食している。これはH21の堆積土砂が流出したことを示しているかもしれないが、人為掘削の影響かもしれない。今後LP測量をして土砂移動状況を詳しく分析し、流下させる部分と除石すべき部分などを検討していきたい。
- P25の全体計画は短期の土砂発生イベント（計画降雨：1/100）への対策案である。R2豪雨による河道内堆積土砂が中小出水によって流出する現象への対応をしつつ、計画降雨（1/100）へも対応できる最適な対策について、アドバイスを頂きたい。

- 球磨川水系河川整備計画を作成したところであるが、土砂・流木の対策を行った上で水を処理することが重要であるため、砂防・治山と連携を行うと謳っている。そのモデルケースとして万江川の土砂洪水氾濫対策を検討し、球磨川流域また全国にも広げていきたい。

2. 「本委員会の検討事項」に関して

● 矢野委員

- 平成29年の九州北部豪雨の赤谷川対応の砂防計画検討委員会が類似事例であるため、報告書を参考にするとよい。当該委員会では、およそ5年程度は残留土砂が流出し続けるであろうと議論した。対策施設として、5～10年は不透過型砂防堰堤で土砂流出を抑え、その後、透過型に変更することで、短期の土砂発生イベントへの対策を行う方針とした。
- 可能な範囲で気候変動の影響をどう入れ込むのか考える必要がある。
→〔事務局〕直轄砂防事業の事例や赤谷川での事例を参考にしながら進める。

● 執印委員

- R2.7豪雨後から現在に至る土砂堆積状況をモニタリングしないと、具体的な対策検討は難しい。
- P29の図2-9において、川辺川でも万江川と同様の現象が見られるが、川辺川においても土砂が堆積して同じ現象が起きているという理解でよいか。
→〔事務局〕第2回委員会で川辺川の水位変化について分析結果を報告する。
方針としては、流出解析を実施し、流量によるものなのか、河床上昇によるものなのか分析を行う。

● 椋木委員長

- H21年～R2年の間に除石作業は何度実施されたか教えてほしい。また、河床掘削していない領域についてはLP差分がそのまま土砂移動量と捉えられるので、その分析をしてほしい。
→〔事務局〕第2回委員会で報告する。
- P29の図2-9において、横軸は時間であるから、スネークラインと土砂災害発生との関係性について分析をしてほしい。
→〔事務局〕第2回委員会で報告する。

3. その他

● 内山委員

- 山江村内では多いときには年間約1300頭、近年でも700頭のシカが狩猟されている。鹿などの有害鳥獣が下草を食べるため砂利流出すると言われている。そういった影響に関する情報を出してほしい。
→〔事務局〕できる限り情報を共有する。

● 事務局

- 第2回委員会の開催はR5年1月を目途に開催予定である。
日程調整は後日行う。

以上